



## 京丹後長寿コホート研究

### 【達成目標】

長寿、特に健康長寿の背景を明らかにすることで、健康長寿の医学的メカニズムを解明し、将来の医療の進捗に大きく貢献する

#### <目的>

長寿、とくに健康長寿の背景因子を明らかにすること。

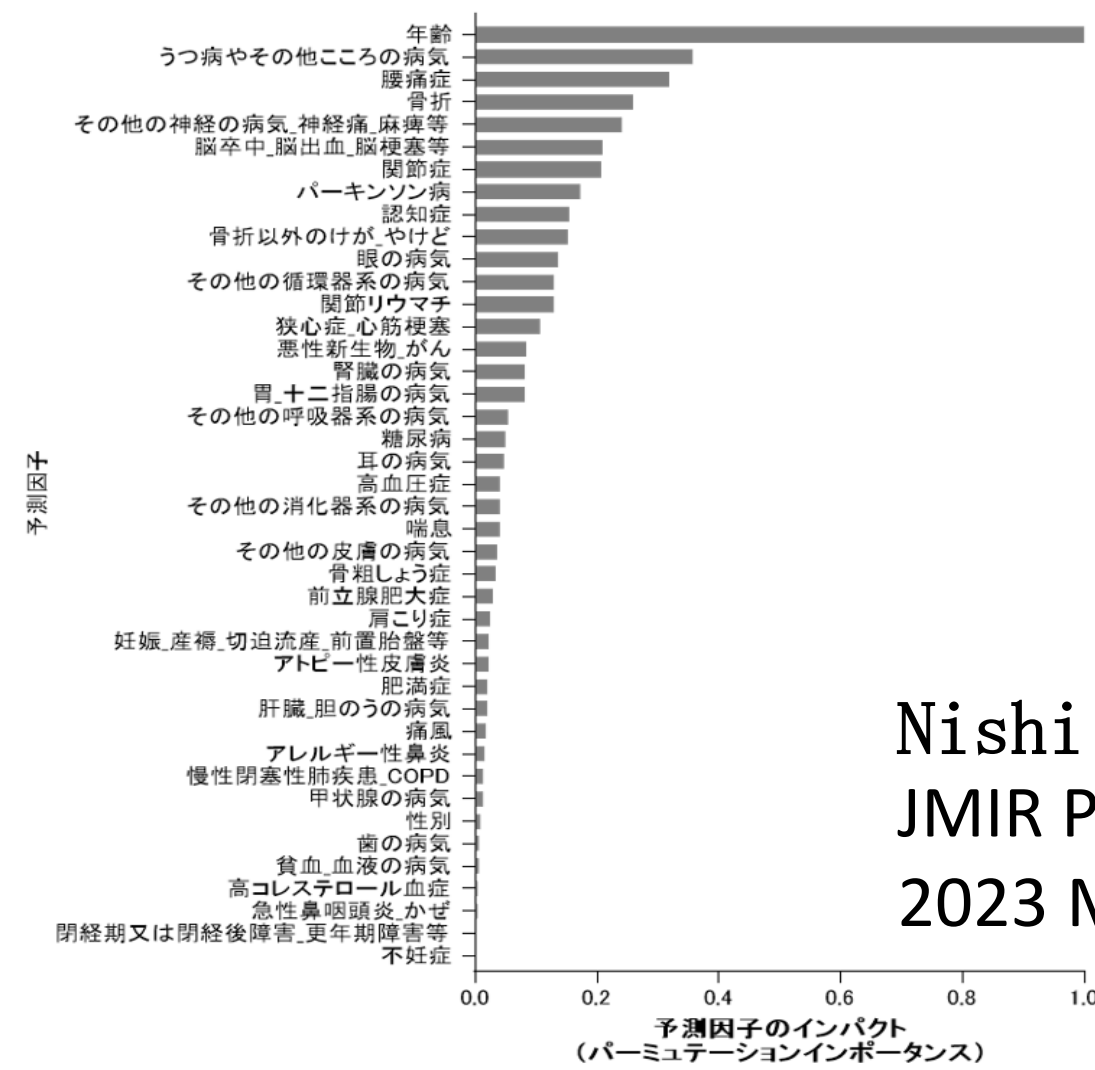
#### <方法>

京丹後地域の約10万人のうち100歳以上の長寿者は2023年1月の時点で180人であり、これは全国平均のおよそ2.8倍です。また京丹後市民のおよそ35%が65歳以上の高齢者であり、高齢者を対象としたコホート研究を実施中です。弘前大学、九州大学及び他施設のデータとの比較検討が始まりました。

	人口	百寿者	百寿者/10万
与謝野町	20096	36	179.1
伊根町	1942	4	206.0
宮津市	16538	22	133.0
京丹後市	51542	118	228.9
京丹後地域	90118	180	199.7
京都市	1334896	1095	82.0
全国	122423038	87828	71.7

百寿者数(10万人あたり)の比較 [住民基本台帳(2023/1/1現在)から]

厚生労働省の国民生活基礎調査票2013、2016、2019年、計150万例のデータを使用。質問項目にある活動制限の有無をターゲットとし、年齢、性別、そして種々の傷病を予測因子として用いて、機械学習で予測モデルを作成し、予測精度は42個の予測因子を用いたときに最高となりました。予測因子のインパクトが大きい順に、年齢、性別、うつ病やその他のこころの病気、腰痛症、骨折、その他の神経の病気、脳卒中、関節症、パーキンソン病、認知症などが上位を占めました。京丹後では健康寿命も高い傾向にありました。



Nishi M, Matoba S, et al.  
 JMIR Public Health Surveill.  
 2023 May 17;9:e46634.

図1. 健康寿命の予測因子のインパクト

## 誰もが自分らしく生活できる未来社会の実現

### 【達成目標】

個人の誕生から最期に至るまで、安心して意思決定できる社会システムを構築し、ウェルビーイングの向上に貢献する

#### <目的>

高齢者や障害者など意思決定に支援が必要な人の意思決定支援を金融や法律の面から支え、「健康資本」が好回転してウェルビーイングを達成できるようにする。

#### <金融機関高齢顧客対応ワーキング・グループ>

##### 設立趣旨

：金融業界における意思決定支援や判断能力評価の課題解決を図る。

- 第Ⅰ期：金融業界における意思決定支援の現状把握
- 第Ⅱ期：支援への気づきと連携、能力評価の可能性検討
- 第Ⅲ期：認知症への備えと情報連携の方針検討
- 第Ⅳ期：当事者視点でのサービス開発の推進

##### 今後の展開

：これまでの会議で検討してきた内容を、知的障害、発達障害、精神障害にも拡大し、障害のある人の成長に合わせた支援の在り方や、当事者視点でのサービス開発、親亡きあとの生活へのサポートについて検討し、地方自治体や国への提言を目指す。

#### <寛容の民法論ワーキング・グループ>

##### 設立趣旨

：高齢者や障害のある人等、意思決定に課題のある人を包摂する民法の在り方を模索する。合理原則から人間尊厳原則への視点変換を行い、民法を新たな角度から理解する。

第Ⅰ期：現行民法の概要把握と意思決定の課題の検討

##### 今後の展開

：従来の合理人の概念から脱し、意思決定のサポートが必要な人物像を広くとらえなおす。また、支援を受ける者だけでなく、支援を行う者の権利も同様に守ることのできる法制度を模索する。

#### 各期の報告書

